

【市民文教委員会】第7次舞鶴市総合計画・前期実行計画 点検評価項目 進捗状況

No.	1
-----	---

第1編	まちづくり戦略
第1章	心豊かに暮らせるまちづくり
第3節	子育て環境日本一を目指すまち

点検評価項目	3 夢に向かって将来を切り拓く子どもを育成するための環境づくり					
	(1)生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進(知・徳・体の育成)					
	④個性を伸ばし児童生徒一人ひとりを大切にされた学校教育の推進					
	<p>小中一貫教育により、義務教育9年間を修了するのにふさわしい学力の定着や豊かな人間性・社会性の育成を図ります。</p> <p>また、特別支援教育支援員を配置するなど、特別支援教育の充実を図ります。</p> <p>不登校については、学校と教育支援センター「明日葉」、フリースクール等が連携し、解決に向けた取組を充実します。</p> <p>また、将来の夢を育み、その夢を実現するためのキャリア教育を推進するとともに、グローバルに活躍する人材を育成するため、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成します。</p>					
	数値目標	不登校の出現率				
	年度	2017年 (基準値)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)
	目標値	小学校 0.70%	0.65%	0.65%	0.65%	0.65%
		中学校 3.22%	3.07%	3.07%	3.07%	3.07%
	実績値	小学校 0.70%	0.87%	1.10%	1.51%	/
		中学校 3.22%	4.33%	5.50%	6.25%	
	数値目標に係る特記事項					
	数値目標	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合(全国学力学習状況調査)				
	年度	2017年 (基準値)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)
	目標値	小学校(6年生) 66.1%	70%	70%	70%	70%
中学校(3年生) 41.5%		44%	44%	44%	44%	
実績値	小学校(6年生) 66.1%	64.2%	調査実施されず	60.3%	/	
	中学校(3年生) 41.5%	41.9%	調査実施されず	38.4%		
数値目標に係る特記事項						

点検評価項目施策の推進に係る説明

令和3年度取組・進捗状況

○小中一貫教育により、義務教育9年間を修了するのにふさわしい学力の定着や豊かな人間性・社会性を育成

小中高をつなぐキャリアパスポートの取組を実施。
個に応じた教育の充実のため、少人数授業やティームティーチングなど少人数教育を実施。

○特別支援教育支援員を配置し、特別支援教育の充実を図る。

特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の構築を図るため、特別支援教育支援員(51人)を配置するなど、個々の教育的ニーズに応える適切な特別支援教育の推進に努めた。

○不登校の解決に向けた取組を実施

教育支援センター明日葉を拠点として、いじめ相談室など不登校の解決に向けた取組を実施。
各学校におけるきめ細かな支援に加え、教育支援センター明日葉、フリースクール等が連携し、未然防止と解消を目指し、取り組んだ。

○将来の夢を育み、その夢を実現するためのキャリア教育の推進、グローバルに活躍する人材育成。

地域の課題学習や市内事業所での職場体験、ICTを活用したオンラインでの交流会や芸術鑑賞等の文化体験等を通してキャリア教育の充実に取り組んだ。

ふるさと学習に取り組むとともに、希望する進路の実現に向けた高等学校等の説明会を実施。

学びをつなぎ蓄積する「キャリア・パスポート」の取組を通して、学ぶことと自己の将来とのつながりについて考える機会となった。

市長の「ふるさと講義」をオンライン会議にて、全中学校2・3年生向けに行い、キャリア教育の充実に取り組んだ。

取組・進捗状況を踏まえた今後の取組等について

困難な状況にある子どもたちに対して、一人一人の教育的ニーズに対応すべく、個別の支援計画やアセスメントにより実態を的確に把握し、保幼小中高と支援を丁寧につなぐ必要がある。

コロナ禍の影響による不登校の増加が懸念されるため、特別支援教育の視点などさまざまな視点から支援に当たれるよう関係機関と連携して、児童生徒や家庭を支える組織づくりを進める。

個々のニーズに合わせてICTを活用した支援をさらに工夫する必要がある。

産業創造雇用促進課と連携した、キャリア教育の充実を図る。

担当課

学校教育課

【市民文教委員会】第7次舞鶴市総合計画・前期実行計画 点検評価項目 進捗状況

No.	2
-----	---

第1編	まちづくり戦略
第1章	心豊かに暮らせるまちづくり
第3節	子育て環境日本一を目指すまち

点検評価項目	3 夢に向かって将来を切り拓く子どもを育成するための環境づくり					
	(2)豊かな学びを支える教育基盤整備の推進					
	③家庭教育を支える仕組みづくりの推進					
	<p>経済的な事情により就学が困難な家庭に対して援助を行い、教育機会の確保を図ります。 また、家庭・学校・地域・PTA等の関係団体が連携し、児童生徒の健やかな成長を支援します。 学校と家庭が連携し、児童生徒の基本的な生活習慣の確立と質の高い家庭学習習慣の定着を図ります。</p>					
	数値目標	—				
	年度	2017年	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)
	目標値	—	—	—	—	—
	実績値	—	—	—	—	—
	数値目標に係る特記事項					
	点検評価項目施策の推進に係る説明					
令和3年度取組・進捗状況						
<p>○就学援助 学校を通して就学支援制度の周知を図り、経済的な事情により就学が困難な家庭に対し、必要な援助ができた。 <実施内容> 学用品費、通学費、学校給食費、修学旅行費、校外活動費、医療費、PTA会費、生徒会費、クラブ活動費、卒業アルバム代等を援助。 小学校(616人)中学校(437人)</p> <p>○PTAと学校・教育委員会が連携し、家庭教育の取組を支援 舞鶴市PTA連絡協議会主催(市教育委員会後援)による研究大会の開催など、PTAとの連携により、家庭の教育力向上を支援する取組を推進した。 <実施内容> ・舞鶴市PTA連絡協議会研究大会 令和3年12月4日(土)開催 参加者 約80人 グループ協議 ・「コロナがおさまってきたからこそ子供との接し方」 ・「各家庭でのトラブル・実体験(SNS等)」</p> <p>○児童生徒の基本的な生活習慣の確立や家庭学習習慣の定着に向けた取組 ・令和2年度に整備した児童生徒用の学習用端末を利用し、ICTを活用した質の高い家庭学習を推進 ・臨時休校時等においても全ての家庭で学習に取り組めるよう、低所得者世帯を対象に家庭の通信環境の整備と通信費の支援を実施 ・各家庭で行う取組を学校だより等で啓発 ・学校と保護者等との連絡や配布物のデジタル化(保護者連絡システムCoDMON導入) ・新学校ホームページの構築により掲載コンテンツの拡充(たより、予定表などお知らせ機能の充実、家庭学習用教材コンテンツの掲載が可能)</p>						
取組・進捗状況を踏まえた今後の取組等について						
経済的な事情により就学が困難な家庭への継続的な支援を行う。 家庭の教育力の更なる向上のためのPTAとの連携による取組を進める。 地域との連携協働を進める。						

担当課	学校教育課
-----	-------

【市民文教委員会】第7次舞鶴市総合計画・前期実行計画 点検評価項目 進捗状況

No.	3
-----	---

第1編	まちづくり戦略
第1章	心豊かに暮らせるまちづくり
第5節	豊かな自然環境を守り育むまち

点検評価項目	2 循環型社会の確立					
	(1)ごみ減量の取組					
	①3R活動の推進					
	<p>環境負荷の少ない2R(リデュース、リユース)を意識したごみを出さない生活スタイルを市民、事業者、市が一体となって取り組みます。 また、不燃ごみの分別区分の見直しなど、循環資源のさらなるリサイクルを推進するよう、普及・啓発に取り組みます。</p>					
	数値目標	市民1人1日当たりのごみ排出量				
	年度	2017年	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)
	目標値	916.0g (基準値)	908.0g	904.3g	899.9g	896.0g
	実績値		883.8g	900.8g	872.8g	
	数値目標に係る特記事項					
	点検評価項目施策の推進に係る説明					
令和3年度取組・進捗状況						
<p>・平成31年4月からごみの発生抑制、分別の推進に向けたさらなる取り組みを進めるため、不燃ごみの分別区分を7種9分別収集に変更し、ペットボトルの単独収集、プラスチック製包装類の分別収集を実施。</p> <p>・また、令和3年7月にはごみ処理手数料の見直しを行い、可燃ごみ処理手数料(指定ごみ袋)の値上げ、不燃ごみのうち、埋立ごみとペットボトル・プラスチック容器包装類について指定ごみ袋制による有料化を実施、また、清掃事務所・リサイクルプラザでの搬入受付手数料徴収を開始した。</p> <p>・こうした中、市民1人1日当たりごみ排出量については、令和4年度の目標値を896g、令和3年度の目標値を899.9gとしているところ、令和3年度の実績は872.8gとなり、いずれの目標も達成した。</p> <p>・令和3年度については、ごみ処理手数料見直し前の4月から6月にかけてごみ排出量が大幅に増加していたが、7月以降は、見直し前と比較して1人1日あたりごみ量が10%程度減少しており、ごみ処理手数料の見直しによるごみ減量効果を確認している。</p>						
取組・進捗状況を踏まえた今後の取組等について						
<p>・本市のごみの状況について引き続き分析・検証し、食品ロスの削減やプラスチックごみの減量、資源化、適正排出、紙ごみの減量やリユースの取り組みなど循環型社会の形成に向け、引き続き更なるごみの減量化とリサイクルを目指す取り組みを進める。</p>						

担当課	生活環境課
-----	-------